点検・評価の結果

政府統計コード	00500244	
基幹・一般の別(選択記入)	特定一般統計調査	
調査の名称	生産者の米穀在庫等調査	
政府内における調査結果の利活用状況 ※該当するものを選択(複数選択可)	○	重要な政策の立案・実施・評価の直接の根拠資料として利用
		国が給付する手当や給付金の算定根拠として利用
		月例経済報告に利用
	○	基幹統計の作成に利用
	○	基幹統計以外の重要な統計の作成に利用
	○	その他（水田農業政策の立案根拠資料として利用）
特記事項	令和６年調査から民間事業者に委託して実施	

①　調査計画との整合性確保等の観点

調査計画との整合性 （整合している場合チェック）	☑ １.調査の目的 ☑ ２.調査対象の範囲 ※ ☑ ３.報告者数等※　（報告を求める個人又は法人その他の団体(報告者)の数等） ☑ ４.報告事項とその基準期日 ※　（報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間） ☑ ５.報告の方法 ※　（報告を求めるために用いる方法） ☑ ６.報告を求める期間 ※ ☑ ７.集計事項 ※ ☑ ８.結果の公表方法及び期日 ※　（調査結果の公表の方法及び期日） ☑ ９.使用する統計基準 ☑ 10.調査票情報の保存　（調査票情報の保存期間及び保存責任者） ☑ 11.立入検査　（基幹統計調査のみ）	**全項目整合**

（注１）「※」を付している一般統計調査の点検項目については、調査事項の10%未満の変更等、承認を要しない「軽微な変更」の範囲や公表内容との整合性に留意して点検を実施

（注２）不整合は生じていないものの、調査計画の改善を検討（予定）している事項がある場合はシート②で記載

②　統計の品質確保・向上を図るための統計作成プロセスの水準の段階的な向上の観点

業務マニュアル等の 整備・共有の状況 及び 実際の業務の実施状況 の確認等	□ 課題なし ☑ 課題あり、見直し・改善を実施（予定含む） □ その他（例：課題精査中、課題はないが見直し・改善を実施（予定含む）等）

	見直し・改善の概要（自由記入）	見直し・改善の内容（左記の類型） （該当するものを選択、複数選択可能）		見直し・改善の対応方法・手段 （複数選択可能）		対応状況 （選択記入）
記入欄 No. 1	＜見直し・改善の契機＞ １．年間調査票のは種用のもみ数量と苗箱数について、もみから苗箱にした場合に、もみ数量と苗箱数の両方に重複して回答してしまう事例があった。 ２．自家で収穫したもみの育苗を委託し、苗箱の納品を受けた場合に、自家消費量のもみ数量と購入量の苗箱数の両方に重複して回答してしまう事例があった。 ＜見直し・改善の概要＞ １について、調査票の説明欄に、もみか苗箱数のいずれか一方に記入するよう記載を追加し、令和８年３月26日付けで軽微変更を行った。 ２について、調査票の記入の仕方に、自家消費量のもみ数量にのみ数量を記入するよう記載を追加した。	○	調査計画の見直し・改善		調査計画の変更申請	対応済
		○	業務マニュアル等の整備・充実・改善	○	調査計画の軽微変更	
			品質の表示	○	業務マニュアルの整備・充実	
			変更管理の実施		実施方法の見直し	
			遅延調査票への対応		その他	
			外部委託先からの意見や改善提案の聴取			
			ＤＸの実施、データのデジタル化			
			システムの要件・仕様の可視化			
			プロセス診断結果の取り込み			
			その他プロセスの段階的な向上に向けた取組			

③　必要な精度の確保・向上の観点

	目安としている指標の設定状況				目安としている指標の具体的推移 （自由記入。別紙も可）		
	精度管理の目安としている指標区分 ※該当するものを選択（複数選択可）		目安としている指標の具体的な設定内容･考え方等 （自由記入。別紙も可）	目安としている指標の設定時期 （自由記入）	今回調査 （又は前回調査）	前回調査 （又は前々回調査）	前々回調査 （又は３回前の調査）
１　調査の実施目的を確保するための精度管理の実施状況		達成精度	令和３年調査までは、１経営体当たりの収穫量（脱穀量）を指標として、目標精度（標準誤差率）を1.0%に設定していたが、令和４年調査からは他の調査と標本共用しており、固有に調査設計していないことから、実績精度は算出していない。このため、参考として有効回答率を記入している。	―	令和６年調査 有効回答率 71.6%	令和５年調査 有効回答率 80.9%	令和４年調査 有効回答率 83.8%
		回収率・回答率					
		回収調査票数					
		カバレッジ					
		その他					
	○	設定なし					